

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計 (教授 等の区 分なし)	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手		
理学療法 科	人	人	人	人	7人	6人	7人	人	22人	18.3人
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
計	人	人	人	人	7人	6人	7人	人	22人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
○	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎 専門 基礎 ・専門)	指定規則教育 内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	30	田多 英興	兼任
		生物学	30	片岡 博尚	兼任
		医学英語	30	都築 玲子	兼任
		情報処理	30	小嶋 麻由佳	専任
		保健体育演習	30	沼田 尚	兼任
		コミュニケーション論	30	水野 豊	専任
		文章表現法	15	小嶋 麻由佳	専任
		基礎数理学	15	山田 剛	専任
		人間関係論	30	山崎 瞬	専任
		チーム医療論	15	遠藤 由香	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	75	宮崎 啓史、尾形 雅君、 山本 由似	兼任
		解剖学実習	45	宮崎 啓史、尾形 雅君、 山本 由似	兼任
		解剖学Ⅱ	15	遠藤 由香	専任
		体表解剖学	30	山崎 瞬、森山 宏則	専任
		生理学	60	高橋 彌穂	兼任
		生理学実習	45	高橋 彌穂	兼任
		運動学	45	山田 剛	専任
		運動学実習	45	山田 剛	専任
		臨床運動学	30	水野 豊	専任
		人間発達	30	山田 嘉明	兼任
		医学概論	30	及川 隆司	兼任
	疾病と障害の成り立ち	医学概論	30	及川 隆司	兼任

	及び回復過程の促進	病理学	30	武田 和久	兼任
		臨床心理学	30	山田 嘉明	兼任
		公衆衛生学	30	及川 隆司	兼任
		リハビリテーション医学	30	渡邊 裕志、鈴木 文歌 尾形 由美子	兼任
		内科学/老年学	30	武田 和久、渡邊 裕志	兼任
		整形外科学	45	及川 隆司	兼任
		神経内科学	45	柳澤 輝行	兼任
		精神医学	30	及川 隆司	兼任
		小児科学	15	及川 隆司	兼任
		薬理学	30	柳澤 輝行	兼任
		言語聴覚概論	15	片岡 由夏	兼任
		栄養学	15	高田 拓明	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	社会福祉学概論	30	横山 英史	兼任
		リハビリテーション概論	30	尾形 由美子	兼任
		地域包括ケアシステム論	15	遠藤 由香	専任
専門分野	基礎理学療法学	基礎理学療法学(講義)	30	福原 浩之	専任
		基礎理学療法学(演習)	30	山崎 瞬、水野 豊	専任
		基礎物理療法学	15	小嶋 麻由佳	専任
		運動療法総論Ⅰ	15	福原 浩之	専任
		運動療法総論Ⅱ	15	福原 浩之	専任
		基礎理学療法学研究法	30	水野 豊	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	30	山田 剛	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ(講義)	30	山田 剛	専任
		理学療法評価学Ⅰ(演習)	30	山崎 瞬、水野 豊	専任
		理学療法評価学Ⅱ(講義)	60	山田 剛、山崎 瞬	専任
		理学療法評価学Ⅱ(演習)	90	遠藤 由香、山崎 瞬 森山 宏則、福原 浩之	専任
		運動動作分析学	30	福原 浩之	専任
		臨床評価学Ⅰ	30	森山 宏則	専任
		臨床評価学Ⅱ	30	山崎 瞬、水野 豊	専任
	理学療法治療学	物理療法学(講義)	30	山田 剛	専任
		物理療法学(演習)	30	菊地 雅行	兼任
		義肢装具学(講義)	15	石島 孝樹	兼任
		義肢装具学(演習)	30	福原 浩之 宮内 博之	専任 兼任

		骨関節疾患系理学療法学(講義)	30	森山 宏則	専任
		骨関節疾患系理学療法学(演習)	60	森山 宏則	専任
		中枢神経疾患系理学療法学Ⅰ	30	福原 浩之	専任
		中枢神経疾患系理学療法学Ⅱ	30	阿部 浩明	兼任
		中枢神経疾患系理学療法学Ⅲ	60	福原 浩之	専任
		神経筋疾患系理学療法学	30	水野 豊	専任
		内部疾患系理学療法学	30	水野 豊	専任
		各種疾患系理学療法学	30	高田 拓明 石島 孝樹	兼任 兼任
		発達障害理学療法学	30	石島 孝樹	兼任
		老年期系理学療法学	30	水野 豊	専任
		スポーツリハビリテーション論	15	森山 宏則	専任
		理学療法技術論Ⅰ	30	遠藤 由香	専任
		理学療法技術論Ⅱ	60	山崎 瞬、森山 宏則	専任
		理学療法技術論Ⅲ	30	山崎 瞬、福原 浩之	専任
		理学療法基礎医学特論	60	森山 宏則、遠藤 由香	専任
		理学療法臨床医学特論	60	山崎 瞬、遠藤 由香 福原 浩之	専任
		理学療法評価学特論	60	山田 剛、水野 豊	専任
		理学療法治療学特論	60	山崎 瞬、福原 浩之	専任
	地域理学療法学	日常生活活動学	30	小嶋 麻由佳	専任
		地域理学療法論Ⅰ	30	遠藤 由香	専任
		地域理学療法論Ⅱ	15	遠藤 由香	専任
		地域理学療法論Ⅲ	15	遠藤 由香	専任
		生活環境学	15	小嶋 麻由佳	専任
		ヘルスプロモーション論	15	高田 拓明	専任
	臨床実習	臨床見学実習	45	科全教員 臨床実習指導者	専任 兼任
		臨床評価実習	225	科全教員 臨床実習指導者	専任 兼任
		総合臨床実習Ⅰ	270	科全教員 臨床実習指導者	専任 兼任
		総合臨床実習Ⅱ	405	科全教員 臨床実習指導者	専任 兼任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

● 基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床見学実習	2年後期	地域理学療法論Ⅰ 理学療法評価学Ⅰ	1年後期 1年後期
		地域理学療法論Ⅱ 理学療法評価学Ⅱ	2年前期 2年通年
臨床評価実習	3年前期	臨床評価学Ⅰ 理学療法技術論Ⅱ	3年前期 3年通年
総合臨床実習Ⅰ	3年後期	臨床評価学Ⅱ 理学療法技術論Ⅱ	3年後期 3年通年
総合臨床実習Ⅱ	4年前期	理学療法技術論Ⅲ	4年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
○	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	教育課程編成委員会；職業実践専門課程
委員名（委員長）	校長、副校長、教頭、科長と委員の先生等
組織の開催頻度	1年に2回
組織の取り組み内容	教育活動の取り組み
	教育内容改善の話し合い
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL：https://www.sid.ac.jp/welfare/sugawara/professional-practice-course）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	PT科ミーティング（毎週1回）内で不定期に実施。
	委員構成等	理学療法科教員等
	改善の仕組みの実際	授業や定期試験、臨床実習の状況や結果を踏まえて、気づいたことを都度議題として提案し改善を検討する。

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価の結果として、専任教員の人数、講義内容、臨床実習等に関して、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守、運用が行われているか確認する機会をえた。

また、2022年度に第三者評価としてリハビリテーション教育評価機構の評価認定審査を受け、結果、一定の水準を満たしていると認定された。職業実践専門課程における教育課程編成委員会や、学校内4科での科長会議やPT科ミーティングでの検討し、課題やアドバイスいただいた点について改善に向けて取り組んでいる。

